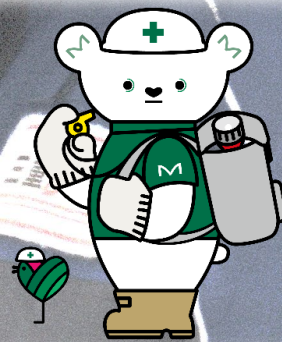


令和6年1月1日に発生しました能登地方を震源とする地震で犠牲となられた方々に謹んでおやみを申し上げるとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

先月号では、地震発生に伴い設置された災害対策本部のごと、DMAT 派遣についてご報告しました。

今月号でも引き続き、DMAT の活動や、その他の支援チームの活動について報告するコーナーを設けましたので、ぜひご覧ください。



Topics 令和5年度 備蓄食料を追加購入しました

災害拠点病院指定要件において、備蓄の確保は3日以上とされており、それをもとに当院でも備蓄の調整をしています。令和2～4年度で3日分の備蓄が完了していますが、令和5年度はプラスアルファ分として、1人あたり1日2食（朝・昼分）の非常食と野菜ジュース1缶を追加購入しました。

令和2年度購入 備蓄食 1日目分

朝

ビスコ（保存期間5年）



昼

白がゆ（保存期間5年）



夕

野菜シチュー+クラッカー

（サバイバルフーズ：保存期間25年）



食料

令和3年度購入 備蓄食 2日目分

朝

缶入りパン（保存期間5年）



昼

わかめご飯（保存期間5年）



夕

野菜シチュー+クラッカー

（サバイバルフーズ：保存期間25年）



食料

令和4年度購入 備蓄食 3日目分

朝

おにぎり 鮭（保存期間5年）



昼

おにぎり おこわ（保存期間5年）



夕

野菜シチュー+クラッカー

（サバイバルフーズ：保存期間25年）



食料

令和5年度購入 備蓄食 4日目分

朝

おにぎり 昆布



昼

おにぎり わかめ



食料

令和2-4年度購入

水



野菜ジュース



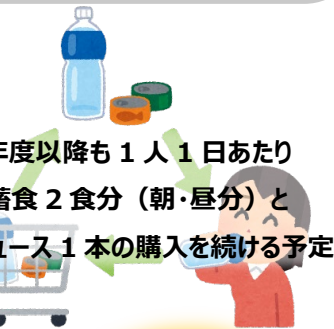
【1人1日あたり水2L、野菜ジュース1本】×3日分を備蓄している

サバイバルフーズってなに？

サバイバルフーズとは、25年の超長期保存が可能なクラッカーとフリーズドライ加工食品の備蓄食のことです。

一般的な備蓄食の保存期間が3年～5年であることを考えると、その約5倍もの

長期保存が可能です！ 引元：セイエンクプライズHP



次年度以降も1人1日あたり
備蓄食2食分（朝・昼分）と
野菜ジュース1本の購入を続ける予定



ロッカーに10αの缶詰やゼリー飲料の備えがあると安心！

栄養診療部 主任
小出 知史 です

Face 



1月5日(金)～8日(月)まで、日本栄養士会災害支援チーム(JDA-DAT)の一員として能登半島地震への災害支援活動に参加しました。

主な活動内容は、被災地での栄養士活動拠点立ち上げ、避難所へ支援物資の搬送を行いました。当時、物資の行き届かない地域もあり、ニーズに合わせた長期的な支援活動が必要だと感じました。

日本栄養士会からは、3月末まで支援要請があり、引き続き当部も協力できる体制を整えて参ります。

JDA-DAT 活動報告 1/5-1/8、1/19-1/22

JDA-DAT (日本栄養士会災害支援チーム)とは、被災地での栄養・食生活支援活動ができる専門的なトレーニングを受けた栄養士のチームのこと。
JDA-DAT 号とは、日本栄養士会災害支援チームの災害支援車両のこと。全国で6台が稼働しており、平時は全国で開催の防災啓発イベント等の活動に活用され、災害時には、緊急災害支援車両として活動する。



活動の様子 第一陣 小出主任 派遣先：石川県輪島市、他

主な活動内容

- ・ JDA-DAT 号の引き渡し
- ・ 各避難所や病院の訪問
- ・ 物資の提供



JDA-DAT 号の引き渡し



特殊栄養食品ステーションの立ち上げ

活動の様子 第二陣 森副主任 派遣先：石川県七尾市、他



支援物資の搬送



継続的に支援できる体制を整えていきます

DMAT 第4次隊活動報告 1/19(金)～1/23(火) 派遣先：石川県輪島市、他

主な活動内容

- ・ 翌日の転院調整・夜間救急外来診療
- ・ 三重大学病院のドクターカーによる石川県内の病院への患者搬送

医師1名、看護師1名、DMAT 補助要員(救急救命士4名)



活動の様子



本部活動支援



転院調整やクロノ、患者リストを作成



平日の外来診療が再開



自衛隊による患者搬送の支援



1台で4名の搬送が可能

DMAT 第5次隊活動報告 1/25(木)～1/29(月) 派遣先：石川県輪島市、他 第5次隊は分隊による活動 先発隊：1/25(木)～1/27(土)、後発隊：1/26(金)～1/29(月)

主な活動内容

- ・ 石川県内の病院へ患者搬送
- ・ 夜間救急外来診療
- ・ カルテ整理や院内の食料整理など病院機能再開に向けた院内復興支援
- ・ 物資調達

医師2名、看護師1名、薬剤師1名、災害支援ナース1名



活動の様子



夜間発熱外来の支援



夜間診療



手洗いの補給



当直常 看護師申し送り



カルテ整理



トリアージタグの電子カルテ転記

Center Message

“価値のある無駄”の代表格である非常食に保存水。何ら災害にも遭わず保存期限が来ると余計なごみと化すものですが、突然の自然災害に遭遇した時にはそのありがたさは身に沁みます。病院の備蓄庫には、今回紹介しました最低限の非常食は備えていますが、野菜ジュース1本、ビタミンゼリー、缶詰といった僅かな自助の備えが被災直後には大きな支えとなります。職員の皆さまも院内の個人ロッカーの片隅には、まさかに備えて総合的な栄養バランスを考えたプラスアルファの備えを準備されてはいかがでしょうか。(災害対策コーディネーター：岩本)

～災害拠点病院として地域で一番の災害対策を目指して～

9階北 看護師長
大原 美佳 です

Face 



1月30日(火)～2月2日(金)まで災害支援ナースとして被災地に向かいました。生活の場は介護度で分けられ、DMAT、JMAT、JRAT、DWAT が介入していました。私達の活動目標は、被災した看護職の心身の負担を軽減し支えること、被災者が健康レベルを維持できるように支えること。そして、災害関連死を防ぐことです。避難者は、施設入所の方で、これまでの生活が補われず、誤薬、口腔内汚染、低栄養、免疫低下、筋力低下などで感染症に罹患しやすい状況でした。私は、多職種と共同し、感染管理などに取り組みました。災害支援ナースの活動は、続きます。復興まで、この先も形を変えて、支援を続けていきたいと考えます。

災害支援ナース活動報告 1/30-2/2

災害支援ナースとは、災害発生時において、被災者が健康レベルを維持できるように適切な医療・看護を提供するとともに、被災した看護職の心身の負担を軽減し支える役割を担う看護師のこと。



活動の様子

主な活動内容

- ・ 避難所内テントの訪問と看護ケアの実施
- ・ 内服薬の管理等を含めた日常生活の援助
- ・ 感染症対策

看護師は、テントの家を一軒ずつ訪問し、体調が優れない方々の状態を観察する



アリーナ内には、コロナウイルスやノロウイルス感染症に罹患した方、通常の被災者を含め100名程度。80歳から90歳代の超高齢の方が多い印象で、介護度も高く心身ともにサポートする体制が必要であった。

